

公益社団法人 砥粒加工学会 北陸信越地区部会 報告

令和6年度 第2回研究・見学会を終えて ～ 三条市立大学（新潟県三条市）～

1. はじめに

去る12月6日(金)に北陸信越地区部会 企画として、令和6年度第2回研究・見学会が新潟県三条市にある三条市立大学において開催された。その概要を以下に報告する。

2. 令和6年度 第2回研究・見学会

第2回研究・見学会は、江面篤志 会計幹事にとりまとめいただき、開催された。初めに、地区部会副会長 川久保 英樹氏より、開催挨拶を行われた。研究会は、2件の講演が行われた。

始めに、地区部会会長の岐阜大学 畷田 道雄氏より「AIと感性評価を用いた日本刀の「美」の科学」と題して講演が行われた。日本刀とは何か、日本刀の「美」について、形状美と官能美についての科学的な評価の進め方をお話しいただいた。形状美に関しては、AIを用いたアプローチについて、官能美に関しては、感性評価による「美」の科学や、日本刀鑑賞 VR の試作と感性評価について紹介いただいた。また、「切る」に関するサイエンスや、岐阜大学の関の刃物サステナブル技術革新拠点についてのご紹介もしていただいた。

次に、山村製作所 代表取締役社長 山村 興司氏より「燕三条地域における刃物製造業の現状と技術について」と題して講演が行われた。最初に燕三条の歴史と現状について、その後、刃物製造技術と燕三条地域の取り組み（産地ブランド化）についてお話しいただいた。刃物に求められる事、材料について、歴史について、次世代への魅力の伝え方について、詳しくお話しいただいた。

いずれの講演についても参加者から多くの質問があり、講演者と活発な議論が行われた。

その後、三条市立大学の見学会に先立ち、三条市立大学 学長 アハメド シャハリアル氏に「三条市立大学の学び イノベーションテクノロジーリスト育成プログラム」と題して、大学紹介をしていただいた。三条市立大学は、2021年4月に開学し、4年目の新しい大学である。特に、実学を重視し、経験させる仕組み、イノベーションテクノロジーリストを育てることを考えたカリキュラム作りをされておられる点について紹介いただいた。その後、砥粒加工学会員の3研究室、生産工学研究室（川崎 一正氏）、技術マネジメント研究室（大川 哲男氏）、アドバンス加工研究室（江面 篤志氏）の見学と、ものづくりシアター、マテリアルラボなどの見学を行った。

見学会終了後、川崎 一正氏より閉会挨拶をいただき、終了した。

3. おわりに

当日は、冬の天候になり足元が悪い中、25名の方にご参加いただいた。参加いただいた皆様、ありがとうございました。

令和7年は、3月4日（火）に富山県南砺市で地区部会大会・第1回研究・見学会、6月20日（金）に長野市で先端加工フォーラム2025を開催する予定である。運営委員会メンバーとともに力を合わせて進めていきたい。
(文責:宮島敏郎)



図1 地区副会長 川久保 英樹氏



図2 岐阜大学 畷田 道雄氏



図3 山村製作所 社長 山村 興司氏



図4 三条市立大学 学長 アハメド シャハリアル氏



図5 研究会の様子